

「自ら学び、豊かに表現し、深い学びに向かう児童の育成」

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを通して～

I 主題設定の理由

日川小の児童の昨年度の全国学力学習状況調査の結果をみると、基礎・基本の内容の定着をさらにすすめていく必要がある。また、問われていることを理解し、必要な言葉を使つて的確に表現したり、資料を読み取ったりする能力も付けていく必要がある。また、言語活動においては、発表の場で終わるのではなく、対話的な活動に至るための手法を取り入れていく必要がある。

そこで、児童の学力向上をめざすために、基礎的・基本的な知識・技能の定着と、豊かな表現力を育成するための対話的な学びを実践し深い学びにつなげていくことが大切であると考えた。

そのため、今年度は対話的な活動を効果的に取り入れた授業づくりを行い、深い学びにつながる方法を授業実践をとおして明らかにしていく。また、日頃から、児童が主体的に学べる授業の工夫を行い、その視点として「やまなしスタンダード」をさらに充実させていく。1年間を通じて児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組める授業づくりをする。

II 研究の内容

1 研究授業

対話的な活動を効果的に取り入れた授業づくりを行い、自ら学び、豊かに表現し、深い学びに向かう子どもを育てる。

- | | |
|-------------------------|---------|
| ・第1学年「いろやかたち たくさんみつけた」 | 武井美奈子教諭 |
| ・第2学年「九九をつくろう」 | 竹川きよみ教諭 |
| ・第3学年「はしたの大きさの表し方を考えよう」 | 今澤比呂樹教諭 |
| ・第4学年「面積のはかり方と表し方」 | 向山 澄 教諭 |
| ・第5学年「比べ方を考えよう」 | 堀井 勝彦教諭 |
| 指導：峡東教育事務所 中村 英彦 指導主事 | |
| ・第6学年「順序よく整理して調べよう」 | 飯島 裕明教諭 |
| ・第6学年理科「水溶液の性質とはたらき」 | 小林みずほ教諭 |
| ・はぐくみ「よくみてかこう」 | 平塚すみり教諭 |
| ・かがやき「短歌をたのしもう」 | 小林 千子教諭 |
| ・すこやか「むかしばなしがいっぱい」 | 深味 朝日教諭 |

2 教育課題および学力向上にかかわる取組

- 「主体的・対話的で深い学び」についての学習会。
講師：峡東教育事務所 中村 英彦 指導主事
- 特別支援教育についての学習会。
「難聴児童への支援の仕方」についての学習会
講師：山梨県立ろう学校 齋藤 亜弥 教諭
- 校内での研修会を行い、先生方がもっている、知識や情報の共有をする。
- 家庭学習がんばりカード（基本的な生活習慣の観点も入れる）を利用し家庭学習を充実させる。また、自学ノートの展示会を行い、児童の意欲を高める。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

今年度、対話的な活動を効果的に取り入れた授業づくりを通して、「主体的・対話的で深い学び」に向かう児童の育成を目指し校内研究をすすめてきた。

今年度の取り組みの中で、授業の中で対話的な活動を効果的に取り入れるには、まず、子どもたちに自分の考えをしっかりと持つための時間を確保することが重要である。そうすることで、対話的な活動に全員が参加することができ、自信をもって自分の考えを出すことができた。さらに、子どもたちが、自分の考えの根拠となるものを見つけ、活発な対話的活動をしていくためには、今までに習得した知識や見方、考え方をどこまで身に付けているかを把握し、活動に必要な知識の整理や準備をすることが必要である。

対話的な活動では子どもたちが、ただ意見を出し合うのではなく、お互いの考えを理解し、友達の考えを自分の考えに活かしていき深い学びにつなげていくことが必要である。そのために、教師は目指すべき子どもの姿を具体的に想定し、そこに向かっていくための教師の問いかけ、発問を工夫し、子どもたちの考えを引き出すことが重要なポイントである。グループで考えたことを、全体の場で練り上げていくためには、適切な問い返しや、子どもたちのつぶやきを拾い上げていくことが大切である。

対話的な活動を充実させるためには、個々の組み合わせを考えたり、どういう形態のグルーピングを学習のどの場面で入れるのかを考えたりする必要がある。何の目的に対話的活動を取り入れるかを明確にすることで、意図的なグルーピングをしていくことができ、児童が多様な考えに出会ったり、あらたな考えに到達したりすることができることがわかった。グルーピングもペア、3人グループ、グループにとらわれない集団など、さまざまな形態を、効果的に使っていくことで個人差を埋めていったり、時間を有効に使ったりすることにつながる。

2 課題

- ・様々な対話的な活動のかたちがある中で、どのような対話的な活動を目指すのか、教師同士の共通理解を行うと、目指す児童像に全学年が同じ方向で取り組んでいくことができる。また、対話的活動の際の発表の仕方や話し方の型など共通したものとあると、児童にも話す際の姿を具体的に示すことができる。
- ・児童の学習を支える知識、見方・考え方の確実な定着を図る。
- ・各分掌担当が持つ研修内容や、各自が持つ知識を、教員間で伝えあえるような校内研修の場を今年度と同様に設けていけるとよい。また、そのことが先生方の負担にならないように配慮していく。
- ・家庭学習に、継続して取り組んだり、内容を充実させたりしていくための方策や、保護者に負担なく協力していただけるような案を考えていく。

(研究主任 今澤比呂樹)